

第5回女性起業家大賞・スタートアップ部門特別賞



## 新しい経営に挑戦 旅館を「地域の問題解決拠点」に

旅館吉田屋 女将 おかみ 山根 多恵

田舎で暮らし、地域のために働くことは格好いい。島根から都会の若者へ提案する、新しい価値観のライフスタイル。

しにせ  
老舗旅館を「後継創業」

大学卒業後、私は大阪の起業支援団体で働いていました。平成17年10月、厚生労働省のアドバイザーとして島根県大田市へ移住。そこで高齢者の起業などをサポートしていました。

同市温泉津町は、元湯が発見されてから約1300年の歴史を持ち、国の重要伝統的建造物群保存地区にも指定されています。しかし地域は高齢化・過疎化に悩んでおり、老舗旅館などでは後継者不足が深刻な状況でした。そんな中、温泉津温泉街で明治43年から続く旅館吉田屋が後継者を探していると聞きました。この問題を解決できるのは、「よそ者・若者・女性」しかないのではないかと考え、住み込みで修業を始めました。

世襲が慣例の女将業。接客や掃除の仕方は先代から学び、経理など旅館経営のノウハウは、自分で探り、習得しました。そして18年1月、旅館の建て直しだけでなく、地域の問題解決拠点として新しい経営に挑戦することを決め、吉田屋の「後継創業」をスタートしました。

「旅館サービス」と  
「地域問題解決サービス」

家族も親戚もない場所に突然1

ターンでやって来たので、当初は旅館を支えるスタッフやパートナーを見つけるのが大変でした。でも同じ志を持つ仲間と出会い、大阪や東京から島根に呼び寄せました。

先代の女将や旦那に代わって旅館を継承してからはウェブサイトを立ち上げ、地域でいち早く無線LANシステムを導入し、全館でのインターネット接続を可能にするなど新たな試みを行ってきました。

吉田屋は、「旅館サービス」と「地域問題解決サービス」の2つの事業を中心に展開しています。「旅館業」として吉田屋を分析した結果、週末に集中して損益分岐点を越えることが分かったので、旅館の営業は金土日の週3日にしました。あとの4日間は、若者のマンパワーが少ない地域で課題を見つけて解決の道筋を探る「地域貢献日」と決めています。

その一例として始めたのが「ぐりーんせらびー」活動。高齢化率が40%を超える温泉津町ならではのサービスとして、週1回、一人暮らしのお年寄りの家を訪問し、緑の鉢植えを配りながら安否確認をしました。

また全国各地の若者を対象に設立した「若女将塾」では、インターン制度を設けて人材育成に取り組み、さらに社会貢献プロジェクトの一環として



旅館吉田屋

「竹やぶSOS基金」を設立。生い茂る竹に困っている地域の人々のSOSにこたえるため、竹を伐採し、加工する会社へ出荷する取り組みも行いました。

ユネスコの世界遺産に登録

本年7月、「石見銀山遺跡とその文化的景観（島根県大田市）」がユネスコの世界遺産に登録されました。これを機に、自分の住む地域だけでなく、島根県・中国地方全体が活気にあふれることを願っています。

「世界遺産初の温泉があるまち」として、これからも情報を広く全国へ発信していきたいですね。そして若い人がイキイキと働けるような環境づくりを目指しながら、地域経済の発展に貢献していきたいと思っています。

旅館吉田屋

平成18年創業  
島根県温泉津温泉で明治43年から続く老舗旅館を「後継創業」。従来の旅館事業のほか、地域の問題解決拠点としての事業も積極的に行っている。

<http://www.lets.gr.jp/yoshidaya/>